

身近な生活から社会の歴史を見通す

中西 聡 なかにし ともひろ

経済学部 教授

歴史に関心のある皆さんが集い、日本経済の歴史の視点から和気あいあいと議論し、三田祭論文や卒業論文を作品として創り上げることを目指します。

子供の頃から歴史に関心のあった私は、好奇心が旺盛で、学生時代は人一倍、旅をしました。私の研究テーマも、日本全国の旧家を回って、残された古文書を整理し、それらを分析して、旧家の歴史を積み上げて日本社会の在り方を明らかにするものです。日本には古来より、豊かな海と豊かな山があり、その豊かさが陸の産業化を支えました。海については、日本海沿岸地域を巡って北前船の研究を行い、山については、木曾山、紀伊山地、中国山地に調査に行きました。鉄道が好きでしたので、鉄道に乗って日本中の農山漁村を回るのが私の夢です。

中西研究会では、日本経済の歴史を多様な側面から研究しており、毎年平均して7〜9名の参加があります。3年生は全体で一つのテーマを選んで共同で研究内容をまとめ、それを三田祭で発表し、その内容をさらに充実させて首都圏の複数の大学で行っているインターゼミナールでも発表します。3年生に主体的に研究テーマを決めても

らうために、3・4年生合同で博物館見学を年に数回行い、同窓生にも参加してもらいます。下の写真は、2019年の博物館見学の時の写真です。研究テーマとして、産業の歴史や都市生活の歴史を取り上げたことが多く、その際に、現代の社会問題に対して「若者らしい」提言ができるように皆さんで考えました。忌憚なく意見を言い合える雰囲気や学生の方から作ってくれます。

4年生は卒業論文を個別に作成しますが、そのテーマは日本経済の歴史に関するものであれば自由としており、皆さんの関心が、娯楽や教育から戦争まで幅広く、戦国時代や江戸時代を取り上げた卒論から20世紀末を取り上げた卒論まで登場しました。そして、4年生の最後に、卒論報告会を開きます。こうした研究会での活動を通して、自分なりの歴史観を養ってもらい、社会に出てからも、流行に惑わされずしっかりと自分の生き方を貫いてもらえればとてもうれしく思います。

歴史から現在をひもとく

おおが りょうへい

大賀亮平君 経済学部4年

中西研究会は、近世から近代にかけての歴史を経済的視点から多角的に分析し、教授も含め学生が実りのある議論を行う場です。私は3年生の時、自分たちの生活に関わるテーマを扱う「輪読」において、同期だけではなく先輩の方々と積極的に意見を交わすことで一歩踏み込んだ議論を行うことができ、三田祭論文の執筆では、目標に向かって仲間と協力しあう力を養うことができました。この力は、今の私にとってかけがえのないものとなっています。学生と教授、同窓生とのつながりが強いことも中西研究会の特徴であり、食事会が開かれたり、年に数回、歴史を題材とした博物館見学を実施したりします。



2019年の博物館見学に際して撮影

6Gを見据えたネットワーク基盤を構築する

当研究室はコンピュータネットワーク&分散システムを研究しています。既存方式の改善ではなく、新しい考え方やモデルの提案を研究方針としています。

寺岡文男

理工学部情報工学科 教授

インターネットが発明されてから約50年経ちました。元々は研究者間利用が想定されていましたが、今や生活に欠かせない社会インフラとなりました。当初のインターネットの仕組みはシンプルなものでしたが、次第に多様な機能が「つぎはぎ」のような形で追加され、このままではさらなる発展が阻害されかねません。そこでその仕組みを根本的に見直し、今後も継続的な発展を可能とするとともに、新たなサービスを提案していく必要があります。

携帯電話の世界では第5世代(5G)と呼ばれる通信技術の普及が進んでいきます。我々は次の第6世代(6G)を見据え、インターネットと携帯電話網が結合した世界における新たな通信基盤やサービスを提案しています。その一つがAFC (Application Function Chaining) と呼ぶ通信と計算の融合です。ネットワーク内には比較的少数の大規模なサーバ群(クラウドサーバ)が設置されるとともに、端末がネットワークに接続する境界付近には中小規

模のサーバ群(エッジサーバ)が多数設置されるようになるでしょう。このような環境で、通信途中にエッジサーバやクラウドサーバでデータを処理する仕組みがAFCです。AFCにより、ネットワーク全体が一つのコンピュータのように見えるようになります。

一方、IoT (Internet of Things) により、あらゆるモノがネットワークにつながると思われます。現在、インターネット接続業者(ISP)が多数あるように、将来はIoTサービス業者(IoTSP)も多数存在するでしょう。そのような環境でどのような仕組みでどのようなサービスを提供すべきかという研究も行っています。

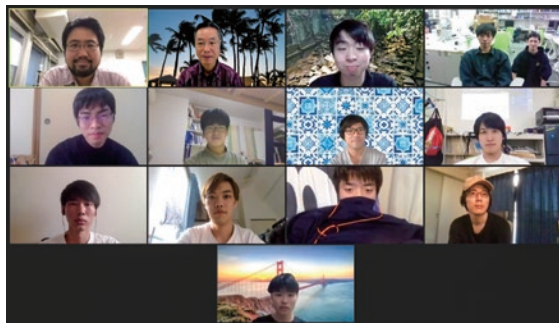
研究室における学生の指導では、提案方式をシミュレーションによって評価することにとどまらず、POC (Proof of Concept) 実装を求めています。これにより、学生には実現可能性を見極める力や実際のシステムを組み上げるスキルを身に付け、社会で活躍してもらいたいと思っています。

新たな時代を見据える研究と教育の場

わたなべひろき

渡邊大記君 理工学研究科博士課程3年

寺岡研究室では、インターネットを代表とするコンピュータネットワークに関する新しい仕組みや概念、利用モデルなどを研究します。多くの研究が「こういう仕組みがあったら面白いよね」という視点から出発し、常に新しい時代を見据えることを意識しています。研究室は、新人研修やチーム制など、学年問わず互いに教え学び合う「半学半教」の理念を表した場になっています。寺岡先生は、研究の話はもちろん、学生と趣味やお酒の話などもされ、気さくに接して下さいます。OB / OG会に今もなお多くの卒業生が参加することからも、人を惹き付ける先生のお人柄が垣間見えます。



Zoomによるオンライン研究会の様子